

8.4 緑

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表8.4-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 ・ 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存緑地の改変の程度 ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。 ・ 苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。 ・ 世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地（北エリア、南エリア、公和寮エリア）で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする計画としている。 ・ 苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拵がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。 ・ 十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.4.3 調査手法

調査手法は、表 8.4-2 に示すとおりである。

表8.4-2 調査手法

調査事項		植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度
調査時点		工事中の適宜とした。
調査期間	予測した事項	工事終了後の冬季（平成30年1月）とした。
	予測条件の状況	工事終了後の冬季（平成30年1月）とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中及び工事の終了後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	予測した事項	任意踏査による植生の状況を整理する方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度

事業の実施に伴い、苑内の植栽樹群の一部が改変されるが、クヌギやコナラの落葉広葉樹を主体とした多様な植物の生育する武蔵野自然林や、常緑針葉樹、常緑広葉樹の広がる外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。また、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り保全している。

現在、工事の施工中であり、植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

イ. 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度

事業の実施に伴い、苑内の植栽群（落葉広葉、常緑針葉、常緑広葉、混交）の一部が改変されたが、武蔵野自然林や外周部樹林帯は保全エリアとして樹木保全を行っている。なお、最終的には従前の緑化面積を上回る緑量を確保することとしており、実施状況については今後のフォローアップ報告書において報告する。

2) 予測条件の状況

ア. 既存緑地の改変の程度

「8.2 生物の生息・生育基盤 (1)調査結果の内容」に示すとおり、既存樹木が計画に基づき維持されていることを確認したほか、苑内からはらっぱ広場、サクラドレッサージュ、放牧場等外構部に移植した樹木を確認した。

イ. 緑化計画

緑化計画については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-3 に示すとおりである。緑に関する苦情は、平成 30 年 3 月までになかった。

表8.4-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> 武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を基本とし、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り残す計画としている。 	<p>武蔵野自然林や外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。はらっぱ広場やナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等についても保全を行っている。(写真8.4-1～写真8.4-4)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苑内の一部の樹木は移植を行いつつ、適宜、新植樹木を配植して緑量を確保する計画としている。 	<p>苑内のモミジ、サクラ、エノキ、クヌギ等約50本については、4～6月にはらっぱ広場、サクラドレッサージュ、放牧場等外構部へ移植を行ったほか、場外への移植も行った。また、プランター用樹木として、7月にサルスベリ等約10本を移植した。(写真8.4-5～写真8.4-8)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 世田谷区みどりの基本条例(平成17年世田谷区条例第13号)における基準緑化をそれぞれの敷地(北エリア、南エリア、公和寮エリア)で満たし、北エリアで約79,410m²、南エリアで約5,370m²、公和寮エリアで約860m²とする計画としている。 	<p>緑地の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苑内で親しまれてきたお花畑やウメ、サクラ、メインアリーナやグラスアリーナ周辺のフジ等を集約し、一年を通じて見どころのある広場とする四季の広場のほか、はらっぱ広場・子ども広場として拡がりのある大きな草地の広場を設ける計画としている。 	<p>緑地の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 十分な植栽基盤(土壌)の必要な厚みを確保する。 	<p>植栽基盤の整備状況については今後確認し、今後のフォローアップ報告書において報告する。</p>



写真 8.4-1 武蔵野自然林の樹木保全



写真 8.4-2 外周部樹林帯の樹木保全



写真 8.4-3 ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群



写真 8.4-4 サクラドレッサージュのケヤキ



写真 8.4-5 モミジの移植状況



写真 8.4-6 クヌギの移植状況



写真 8.4-7 移植後のモミジ



写真 8.4-8 移植後のクヌギ

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度

事業の実施に伴い、苑内の植栽樹群の一部が改変されるが、クヌギやコナラの落葉広葉樹を主体とした多様な植物の生育する武蔵野自然林や、常緑針葉樹、常緑広葉樹の広がる外周部樹林帯は、保全エリアとして樹木保全を行っている。また、苑内についてははらっぱ広場、ナチュラルアリーナのヒマラヤスギ群、サクラドレッサージュのケヤキ等の既存樹木を可能な限り保全している。

現在、工事の施工中であり、植栽内容（植栽基盤など）の変化の程度については、今後確認を行い、今後のフォローアップ報告書において報告する。

イ. 緑の量（緑被率や緑化面積など）の変化の程度

事業の実施に伴い、苑内の植栽群（落葉広葉、常緑針葉、常緑広葉、混交）の一部が改変されたが、武蔵野自然林や外周部樹林帯は保全エリアとして樹木保全を行っている。なお、最終的には従前の緑化面積を上回る緑量を確保することとしており、実施状況については、今後のフォローアップ報告書において報告する。